

平成28年度大阪府立八尾支援学校 第2回学校協議会報告

平成28年12月20日

□日 時 平成28年12月20日(火) 午前10時～12時

□場 所 大阪府立八尾支援学校 多目的室2

□テーマ

- ・平成28年度学校経営計画の進捗状況について
- ・平成28年度学校教育自己診断進捗状況について
- ・居住地交流進捗状況について
- ・第2回授業アンケートについて
- ・平成29年度使用教科用図書について
- ・中河内地域のセンター的機能の取り組み進捗状況
- ・キャリア教育の取り組み進捗状況
- ・学校見学会・教育相談の状況
- ・保護者から寄せられた意見

□学校協議会委員

岡崎 裕子	(大阪大谷大学 教育学部 教授 学長補佐)	
奥野 美和子	(東大阪子ども家庭センター 課長補佐)	
御前 敬	(八尾市障害福祉課 課長)	欠席
佐藤 早苗	(東大阪市療育センター 第一はばたき園 園長)	
西原 直美	(本校 PTA 会長)	
山崎 高義	(東大阪市障害者就業・支援センター 所長)	欠席

□学校協議会事務局

渋川 雅宏	(教頭・小/高)	山田 美也子	(教頭・中)
小林 俊雄	(事務長)	荒木 智恵子	(首席)
井川 忠都	(首席)	横山 眞二	(首席)
山本 耕平	(首席)	松村 由美	(部主事・小)
長谷川 次郎	(部主事・中)	谷 浩美	(部主事・高)

□協議会 内容

1 学校長挨拶

いつも本校の教育活動、学校経営へのご理解・ご協力に感謝します。

まず、二点についておわびと今後に向けての課題を申し上げたい。近隣の支援学校でまた体罰事象が生じた。また今年度は、他校で牛乳アレルギーのお子さんへ適切でない対応や、個人情報取り扱い不備などもあった。本校としても、このようなことのないように進めていく。

もう一点は、先週本校体育館後方の天井梁に隣接した壁から、化粧モルタルの崩落があっ

た。始業前に発見されたので、大事に至らなかったが、あってはならないことである。当面は使用禁止とし、二学期の終業式は集会室にて行い、冬休み中に点検・修繕をし安全面を確保する予定である。

本日は皆様から十分にご助言いただき、学校経営に活かしていきたい。

2 第1回 学校協議会 議事録について確認 (P2~6)

3 平成28年度学校経営計画の進捗状況について

- ・小学部から高等部まで大筋同じ目標だが、高等部は、特徴的な取り組みや卒業後の自立等に向け独自の目標も入ってくる。
- ・中期的目標としては、3カ年のスパンで達成していく。本校は大きく4つ (1~4) 挙げている。数値目標を定め、PDCA サイクルで取り組んでいく。
- ・資料 (P7~10) の自己評価のところをご覧ください。

★校長より (小・中学部)

1 『支援学校における教育力の向上、組織としての専門性の向上』

- ・(1) の①「合理的配慮に関するアンケート」の実施が遅れている。昨年度、「視覚的支援」についてアンケートを実施し、まとめた冊子も学校ホームページに載せているが、これをベースにして今回の「合理的配慮に関するアンケート」を作成した。1月以降の実施をめざし、結果を個別の支援計画等につなげていきたい。
- ・(2) の①「授業力の向上」のひとつとして、教職員による授業見学を実施し、中堅以上の教員も含め全員、他の教員の授業を見て勉強する機会を年に数回設定している。(4) 今年度校務分掌組織を改編した。それぞれの部門を首席が統括している。スピーディーで機動的な組織にし、学部同士の風通しをよくし、ひとつの学校として動けるようにしようというのがねらいである。

2 『キャリア教育・進路指導の充実』

- ・(1) 今年度2つの取り組みを行っている。①「キャリア教育発達段階表を基にした評価基準」づくりと②「ライフスキルチェックリスト」の作成である。これについては、後ほど別途首席よりご報告する。
- ・また(2) 教職員のスキルアップについては、「パッケージ研修」(キャリア教育に関する授業の実践・改善をテーマにしたもの) を申し込み、年度内に数回時間を取り、実践・協議等を行う予定である。これも後ほどご説明申し上げます。

3 『センター的機能の充実と開かれた学校の推進』

- ・大阪府の地域支援整備事業(平成18年度より開始。本校は中河内ブロック)として、新たに「拠点校型巡回相談」(八尾市1中学校区、東大阪市2中学校区にて)を開始した。

4 『安全・安心な学校づくりの推進』

- ・(1) 昨年度より重点的に行っているが、教員に対し、「人権研修」を職員会議の前に組み入れ実施した。講師は管理職のみならず、首席や外部研修を受けた教員による伝達講習など、いろいろなテーマ、講師などで執り行った。「やっただけ」とならないように、繰り返して取

り組むことが肝要である。また、「人権週間」（12月）として学部ごとに児童・生徒向けの取り組みを行い、昨年度に引き続き「人権文化発表会」（1月）に書道で出展の予定である。

- （2）「防災」について、防災マニュアルや「大災害時事業継続計画（BCP）」を作成したところである。10、11月に立て続けに地震が起こった。いつなるとき起こるかわからないので、今後も緊張感を持って当たっていきたい。
- （3）平成30年に実施される管理棟の大規模改修に向け、今年度は基本設計、来年度に実施設計を行うことになっている。

【質疑応答、ご意見】

Q：①地域との連携のところで、学校が終わってからの生活として、児童デイサービスを使うことが多いと思うが、学校での生活、デイサービスでの生活、家での生活の関連についてどのようにお考えか。事業所とは担当者の会議等あるのか。

②また、就学前の子どもたちが小学校にあがったとき新しい環境に混乱していることが多いので、サポートブックを作るなど実践協議会で話題としているところである。子どもたちが新しい環境に入るに当たって、学校として就学前の施設にどのようなことを求めておられるか。（委員D）

A：①放課後の時間も長いので、下校支援として放課後等デイサービスを活用されている保護者も増えている。子どもについて作成される「個別の教育支援計画」として、続いていると考える。もちろん学校に見学に来ていただいたり、必要であればケース会議を行ったりなどさせていただいている。福祉の方にも公開授業などつながっていくなど何か方策はないかと考えている。拠点校型地域支援で、幼・保・小・中でいっしょに地域支援しているので、つながって連携・協力していけないか。

②教育相談をできるだけ丁寧に行って、ご要望にお答えできるようにと考えている。個別の教育支援計画などの文書も引継ぎになるし、来ていただいて具体的に言っていただくなどもできる。

（小学部の方から補足あれば）本校の入学予定者については、出身園訪問をさせていただき、就学前施設との連携をとらせていただいている。サポートブックを持ってこられる方もおられる。もし作っておられるのであれば、出してくださいとお願いして活用できる。

補足：私の園では希望される保護者には職員とともにサポートブックを作らせてもらっている。他のいろいろなところではどうかと思って、アンケート等などしながら実状がつかめるかと考えている。サポートブックについてご存じないところもあるかもしれない。保護者だけで作るのは難しいので、園の先生のご協力もと要請している。（委員D）

★准校長より

①『支援学校における教育力の向上、組織としての専門性向上』

- （1）②高等学校に準じる課程として見直しをした。給食の時間を自立活動からはずして昼休みとし、教科時数を増やした。また実習を職業に改めた。平成29年度より実施するので、保護者に通知する。
- ③授業アンケートの結果、視覚的支援が高等部では弱いのではないかということが、改善点

として出た。

- ・(2) ②授業力向上として授業観察を複数回行った。
- ・(4) 学校教育自己診断をもとに、回復から醸成（信頼）へ、学校づくりを推進する必要がある。

②『キャリア教育・進路指導の充実』

- ・(1) ②評価測定のための指標が完成

③校外での実習が少ないので、高1から実習の機会を増やした。外部へ行ったり、外部から講師に来てもらったりということもしている。

③『センター的機能の充実と開かれた学校の推進』

- ・(1) ①高校の中で、通級指導学級ができる。今後も今以上に支援学校が高校に支援することが必要になってきた。
- ・(2) 学校の紹介はブログで公開しているので見てほしい。
- ・(3) 人権研修は、肢体不自由など違う校種の事例検討も行った。

④『安全・安心な学校づくりの推進』

- ・(3) ①掃除担当者と安全点検者を統一して、より危険な箇所を早く発見できるようにした。

4 平成28年度学校教育自己診断進捗状況について（資料P11～12）

- ・趣旨・目的は昨年度と同じ。昨年度旧東校のものと統一した。今年はほぼ昨年度と同じ。
- ・分析基準もまったく同じ。現在回収し、集計を終えたところで、分析中である。
- ・1月職員会議で報告し、改善してもらおう。
- ・協議会では次回会議に報告の予定。その後保護者に報告する。詳細はプリント参照。

【質疑応答、ご意見】

Q：育ちが大事で、子どもたちの目標、達成感、信頼関係を作る。評価をしにくいところであるが、教員内で意識を高める手立てはどうされているのか。（委員D）

A：学年会で個人の子どもについて話をするようにしている。授業の中でどこまでがんばれば褒めてあげるか、T・T（チームティーチング）の中でみんなで協力して支援している。

Q：データをもとに改善していくのはいつからするのですか（委員A）

A：委員会内で審議し、検討部分を各部署に投げかけていく。実際的には各教師が行っていく。

ご意見：自己診断の結果をどう活かしていくか、大きな点は年度替りとなるだろうが、細かいものはできるところを改善したらどうか（委員A）

A：7割を基準に考えているが、少数意見も大事なので、早く取り掛かれることについてはとりくむ。例えば、キャリア教育を保護者にわかっていただく手立てとして、ライフスキルアンケートなど。

5 居住地交流進捗状況について（資料P18）

- ・小学部では、支援学級との交流会が多くできた。
- ・中学部では、昨年より中学校との交流が増えた。例年の人数からすると倍となった。

- ・授業に入ることも増えた。通常学級有志との交流もあった。

【質疑応答、ご意見】

Q：子どもの感想。教師の意見などはどうでしたか（委員 D）

A：中学部は特に同級生からの声かけが多く、喜んでいた。

6 第2回授業アンケートについて（資料 P19～22）

- ・意見を担任・学年にも見せている。自由記述は良いことも含めて記入されている。

【質疑応答、ご意見】

Q：授業内容への興味関心が弱いのはなぜですか（委員 D）

A：視覚教材のことも要因である

Q：小さいころはいろいろなことを体験しながら、興味関心を広げているが、高等部でもそういうことができるのではないかと（委員 D）

A：教材提示がまだ不十分ということが表れている。要は、授業力が向上していくことが必要。教員の障がい児理解能力を向上させる。授業公開、ミニ研修の実施、授業観察のガイドラインに五つの観点があり、管理職はこれをもとにしている。

A：課題の設定が合っていない。ご意見に対しては、T・T（チームティーチング）で、教師の関わり方をうまくしていくことが大事。

A：T・T（チームティーチング）で活用する上で、先輩教師とチームワークをどうするか、意思疎通を図っていくことが大事。

ご意見：他校の研修会の教師への報告会をするなど、情報の共有を進めてほしい。久里浜の例などを利用してみるのもいい（委員 A）

ご意見：発達障がいがあって、難しすぎると感じる人と簡単すぎると感じる人がいる（委員 B）

ご意見：中学部から高等部になり、グループ数が少なくなって、子どもには難しいグループと感じた。教員と相談して、グループ変更も考えた（委員 E）

7 平成29年度使用教科用図書について（資料 P23～28）

8 中河内地域のセンター的機能の取り組み進捗状況（資料 P29）

- ・本年度本校が推進校。活動場所は東大阪市・八尾市・柏原市（西浦支援と調整）
- ・ブロック研修会（8/8 事例検討会、1/6 講演会）
- ・本校での取り組み（校内ケース会議：事例によってデイサービスも参加してもらうことがある）
- ・拠点校型巡回相談、市教委と連携、今年度から実施
- ・研修会への講師としての参加、多様なジャンルあり、高校への支援も増えている。
- ・夏の公開研修会
- ・新たな取り組み「中河内支援通信スクラム」の発行、生徒向け出前授業

【質疑応答、ご意見】

Q：ブロック研修への参加の割合はどうか（委員 A）

A：支援学級、コーディネーターが多い、ユニバーサルデザインについての話題も

9 キャリア教育の取り組み進捗状況（資料P30～41）

・今年度よりキャリア教育プロジェクトチームを立ち上げ、以下の2つのことに取り組んでいる。

① キャリア教育発達段階表を基にした評価規準（資料P33～36）

小中高の各学部で作成した基準を一つにまとめ、全学部共通の規準（案）を作成した。今年度は試験運用という形をとり、教職員から意見を伺っている。チェックをつけるだけでなく、キャリア教育への意識や日々の授業作りに活かしてほしい。

② ライフスキルアンケートについて（資料P37～41）

ライフスキルに関する保護者向けアンケートを2学期に実施。保護者のニーズを把握。現在結果を集計している。提出率は小学部が76%、中学部が77%、高等部が55%だった。今後集計した結果を保護者や教職員に伝えていきたいと考えている。

【質疑応答、ご意見】

Q：評価規準とライフスキルはそれぞれ別のものなのか。評価規準の作成に保護者の意見は反映されているのか。（委員A）

A：評価規準は教職員から、ライフスキルは保護者からの意見を集約している。評価規準とライフスキルとで重なる部分もあるので、組み合わせることができれば。

Q：ライフスキルは自分の子どものことを見て、子ども自身の状態について答えるものでいいのか。ストレスに関する項目などは答えるのが難しいのでは。

A：担当の教職員で項目については検討を重ね、答えられる項目をなるべく増やした。

ご意見：子どもの状態について個別に見ていくためにはこうした規準は有効だが、あまり細かくしてしまうと、子どもの全体像を見失う恐れがある。子どもを重点的にどう活かしていくかの視点が必要だと思う。（委員D）

：一定の目安として見つつ、子どものこれからを考える上での資料として活用できたらと考えている。

ご意見：それぞれの項目が重要であるということを保護者や教職員に知ってもらう点では大事なことだと思う。

A：個別の教育支援計画などの目標設定に活かしてもらえれば。

ご意見：部分だけに注目するのではなく、全体像を念頭におくことが大事。それぞれのスキルを独立したものでなく、関連するものとして、円のようなイメージで考えて見られたらよいと思う。（委員A）

A：本校中学部でSST（ソーシャルスキルトレーニング）に取り組んでいるが、ライフスキルとは、子どもの自立に向けた基本的かつ包括的なもので、子どもの自己実現に向けた広い概念として捉えていけたらよい。単にチェックをつけて終わりではなく、具体的な活用方法については今後考えていきたい。

A：それぞれの項目は点かもしれないが、それぞれの点が線になっていくような相乗効果を期待したい。

ご意見：できる、できないだけでなく、できない理由についても考えることが必要ではないか。

周りの環境や教職員のかかわり方などにも注意を向ける必要があるのでは。(委員D)

ご意見：単なる項目のチェックだけでなく、全職員で共有することが大事。(委員A)

10 学校見学会・教育相談の状況 (P32)

学校見学会の参加者数は各学部とも昨年度並みであった。教育相談の数については、小学部は増えている。中学部については例年通り。高等部の入学予定者数が空欄になっているが、これは併願の生徒があり、未確定な部分があるため。

11 保護者から寄せられた意見 (今回はなし)

12 パッケージ研修について (資料P42~44)

先ほどのキャリア教育に関連して、実際の授業を通じて考えていくことがねらい。

教育センターの指導主事と一緒に研究授業を行っていく。2月23日に研究授業が予定されている。キャリア教育について全職員で考えるきっかけになればと考えている。

13 准校長挨拶

本日はどうもありがとうございました。学校経営は校長、准校長の思いだけでなく、教頭、首席、部主事が他の教職員をつなぎ協力できる学校づくりをすすめていく。子どもが中心であることを念頭に置き、卒業後を見据えて自己肯定感、自己有用感(ありがとうの体験)を育む教育、命の教育を全職員で行っていく。

14 閉会 諸連絡 次回開催確認

次回は2月中旬予定

今回、傍聴者4名